

令和5・6年度
鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校

研究主題

夢や希望をもち、目標に向かって自ら学び、
仲良く、心身を鍛え自立できる生徒の育成
～生徒が楽しく、意欲的に運動に取り組むための授業・環境・意識の改善～



運動大好き伊崎田っ子



令和6年9月19日(木)
志布志市立伊崎田中学校

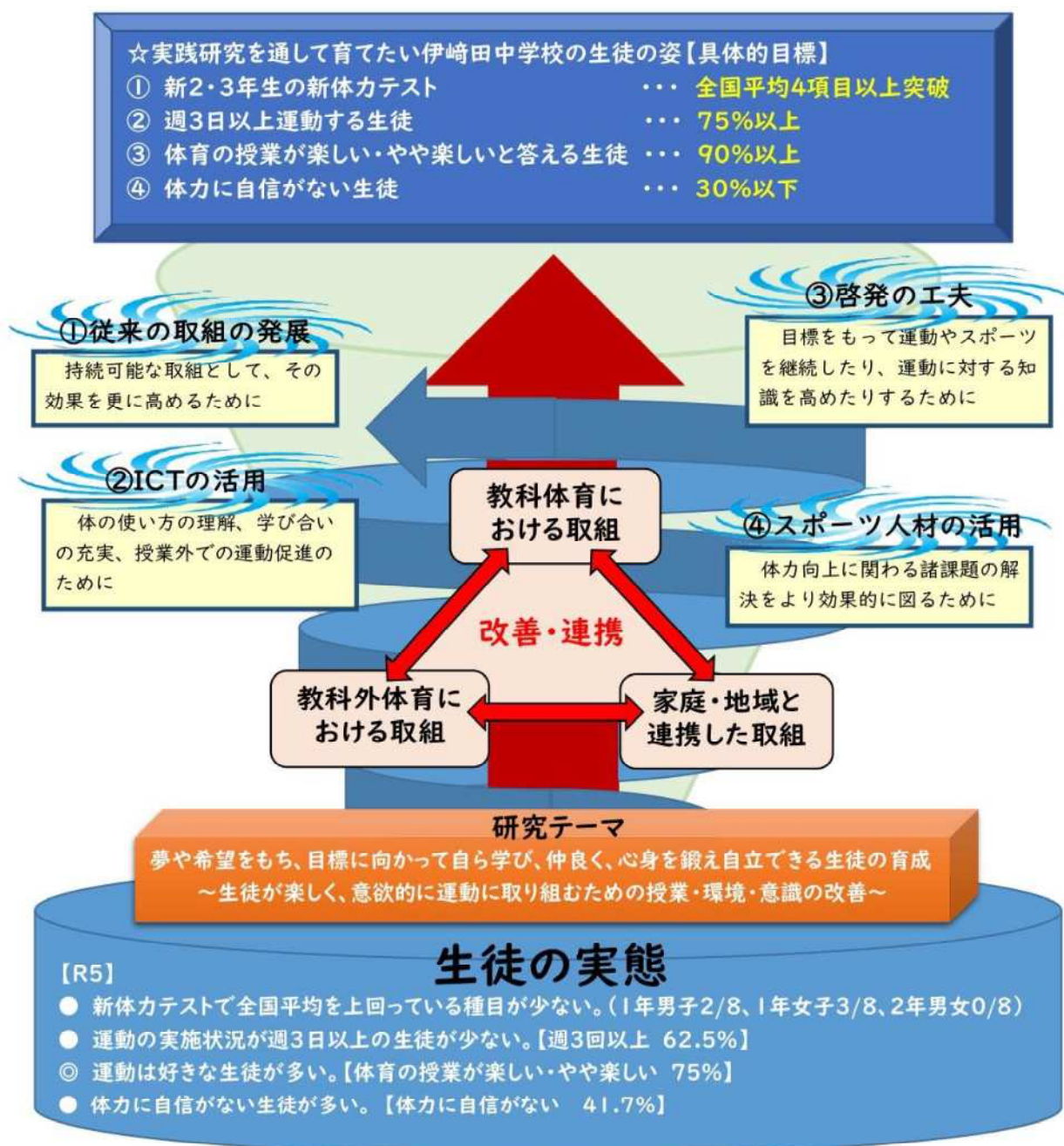
はじめに

本校は小規模の小学校併設型中学校であり、生徒の多くが小学校1年生から同じクラスで過ごしていることもあって、互いのことをよく理解し、よい人間関係を築いている。また、授業にもしっかりとした態度で臨み、全国学力・学習状況調査では多くの生徒が全国平均を超えるなど学習に対する意識は高い。しかしながら、生徒数が少ないことや地域の実態から部活動が年々減っていくなど、運動に関する環境はここ数年整えることができていない状況にある。令和5年度の「新体力テスト」の成績では全国平均を上回っている種目が少なく、「新体力テストアンケート」の結果からは運動する習慣が身に付いていない生徒が多いこと、運動は好きだが体力に自信のない生徒が一定数存在することが分かった。そこで、今後も持続可能な取組となるように新しいことに取り組むことに重点を置くのではなく、現状の取組を工夫することに重点を置き、次のような仮説を立て、研究に取り組んだ。

研究仮説

従来の取組を改善し、ICTやスポーツ人材を活用したり、啓発方法を工夫したりすることで、目指すべき生徒の姿を達成できるのではないだろうか。

研究構想図



教科体育における取組

基本的な1単位時間の流れ

【導入】

○ 準備運動・補強運動【取組①】

○ 学習課題の確認

【展開】

○ 活動

○ 確認(動作・作戦の確認)【取組②】

○ 活動

【終末】

○ まとめ

○ 振り返り【取組③】

取組①

1. 「体力アップ!チャレンジかごしま」への取組

令和5年度は全学年「長縄エイトマン」に挑戦させ、学年で記録を競い合わせた。今年度は生徒に取り組みたい種目を選択させ、1・2年生は大縄跳び、3年生は長縄エイトマンに挑戦し、記録の入賞を目指している。

2. 個に応じた補強運動の実施

体力テストの結果から、個々によって体力要素の課題は違う。そこでそれぞれの課題に応じた補強運動を選択し、準備運動等で取り組めるように工夫した。

3. 柔軟テストの実施【月1回】

新体力テストの分析結果から、経年的に柔軟性に課題が見られたため、月1回柔軟テストを実施し、生徒が主体的に柔軟性を高める補強運動にも取り組むようにしている。



【長縄エイトマン】



【個に応じた補強運動】



【長座開脚テスト】

取組②

ロイロノートの資料箱に模範となる動作の写真や動画を入れて、それぞれ動作を撮影した後、自分の動作と模範となる動作を比較できるようにした。また、話し合い活動の時間を設定し、各グループが目的に応じて端末や作戦ボードを使い分け、効果的な話し合い活動ができるようにした。



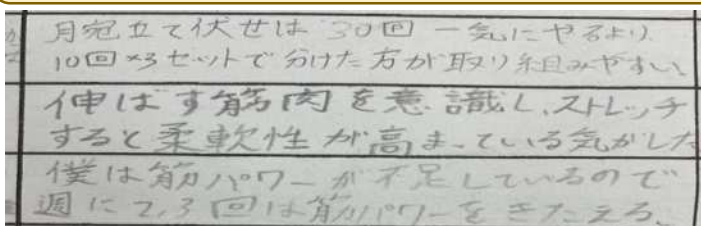
【ロイロノートの活用】



【話し合い活動】

取組③

授業の振り返りとして学習カードに「何ができるようになったか」や「気付いたこと、感じたこと」を自分の言葉で書かせることで学びを深められるようにした。また、他人の振り返りを聞くことで、多角的な理解につなげられるようにした。



【生徒の振り返り(気付き・課題)】



二人で話しながら

端末を見ながら

教科書を見ながら

【振り返りの一場面】

教科外体育における取組

取組①

生徒たちが、自分たちの実態はどうか、目標を達成するためにこれからどう取り組んでいくのかなどを理解して取り組んだ方がより効果が高まると考え、まず生徒に説明する機会を設けた。その他、全校朝会や各種便りの中で「運動のよさ」について説明したり、学期始めに行う生活リズム調査の中で運動時間を確認し、その状況を伝えたりすることで意識の改善につなげている。



【研究に関する説明】

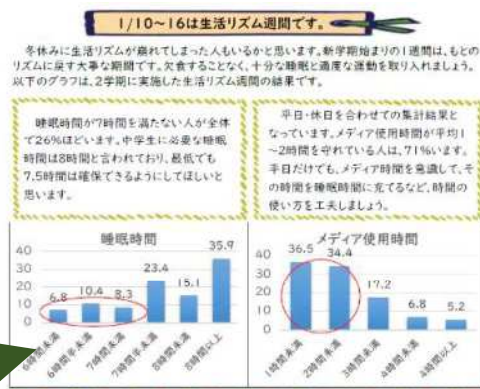


【学校だより】

- 運動するよさについて
- ①運動と学力の関係
 - ②中学生の時期に行う効果的な運動
 - ③〇分の運動で集中力アップ
 - ④「運動脳」書籍の紹介 など

生活リズム調査内容

- 朝ご飯
- 就寝時刻
- 起床時刻
- 睡眠時間
- メディア9時オフ
- メディア視聴時間
- 運動時間
- 学習時間



【保健だより】

取組②

生徒会（保体委員会）の取組として毎週水曜日に全校ランニング「朝ラン」を行い、体力向上を図っている。また学期1回「伊中オリピック」を開催し、その種目の一つに「朝ラン」を入れてその効果を高めた。他にも週1回全校生徒で遊ぶ日を設定したり、校舎内に「運動大好きコーナー」を設置したりして、運動を身近に感じられるようにしている。



【朝ラン】



【全校生徒で遊ぶ日】



【運動大好きコーナー】

取組③

本校は小学校併設型小中一貫校である。令和5年度は小学校体育の参観機会をつくり、職員全体で授業研究を行うことで、入学してくる生徒の実態把握につなげた。また、生徒にトップアスリートを生で見る機会を設定し、スポーツに対する興味や「自分もこうなりたい」という情熱が高まるようにしている。



【小中合同授業研究】



【トップアスリート観戦（国体・県下一周駅伝）】



家庭・地域と連携した取組

取組①

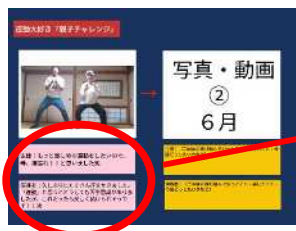
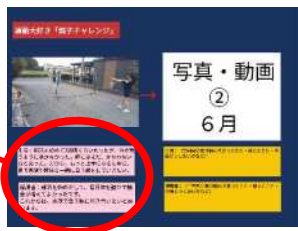
生徒が運動に親しむためには、まずは家庭の理解が必要であると考え、家庭教育学級でヨガ教室を開いたり、公認スポーツ栄養士を招いて食育教室を開いたりした。また、「親子チャレンジ」として自宅等で運動している写真や動画をロイロノートで提出させ、親子で運動について考えるよい機会にしている。



【家庭教育学級】

生徒：部活を始めて3週間くらいだったが、体が思うように動かなかった。姉にはまだ、かなわないと思った。だから、もっと上手になるために、家で家族や姉妹と一緒に自主練をしたい。

保護者：部活を始めだして、毎日体を動かす機会が増えてよかったです。これからは、家族で自主練に付き合いたいです。

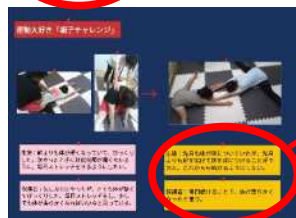


生徒：もっと激しめの運動をしたいので、母、頑張れ！！と思いました笑

保護者：久しぶりにたくさん汗をかきました。「運動」と思うとどうしても苦手意識がありましたが、これだったら楽しく続けられそうです！！笑

生徒：プランクよりは簡単なので、できる回数を増やせるように毎日続けていきたい。

保護者：地味に見える運動だったけど意外ときつくて筋肉痛になったね。前回は引き続きこの運動もできる時に無理なく続けていこうね。



生徒：先月も体が床についていたが、先月よりも足を広げて体を床につけることができた。これからも続けるようにしたい。

保護者：毎日続けることで、体が柔らかくなったと思う。

【親子チャレンジの様子】

取組②

本校では朝ランに取り組んだり、昼休みに生徒全員で遊ぶ日を設定して運動したりしている。その中で、その状況にあった地域人材を活用することにより、生徒たちも抵抗なく継続して取り組めると考え、実態に合った地域人材を活用している。

取組③

地域の伝統行事「伊崎田相撲」に多くの生徒が参加し、郷土について理解を深めるよい機会としている。また、部活動や地域スポーツ少年団（クラブ）に地域の専門指導員を招き、より専門性の高い指導を受ける機会を設定することで競技レベルの向上につなげている。



ランニング指導（地域人材活用）



伊崎田相撲への参加（伝統ある地域行事）



地域連携



モルック体験（校区コミュニティ協議会との連携）



部活動・クラブ指導（地域人材活用）

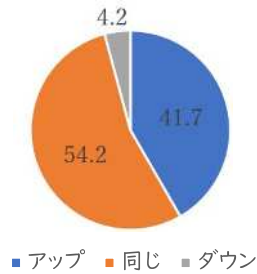


成果と課題

【新体力テスト結果から】

前年度からの記録の伸び(※全国平均 100)				
	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
握力	105	89	105	113
上体起こし	109	90	111	103
長座体前屈	113	100	95	104
反復横跳び	98	100	106	115
20mシャトルラン	96	88	117	122
50m走	100	100	105	106
立ち幅跳び	104	95	97	106
ハンドボール投げ	84	83	90	107
合計	104	90	108	117

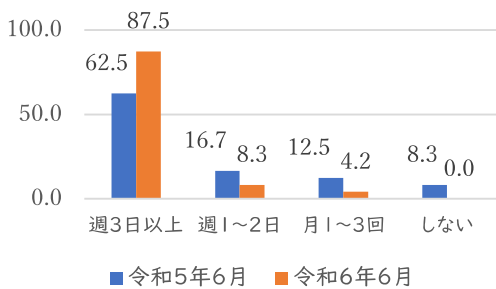
体力テスト総合評価



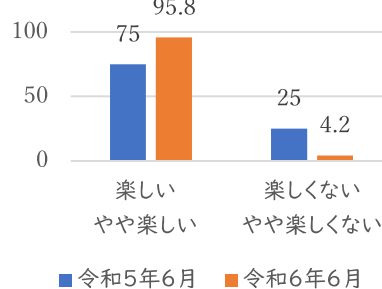
体力テスト個人得点変化



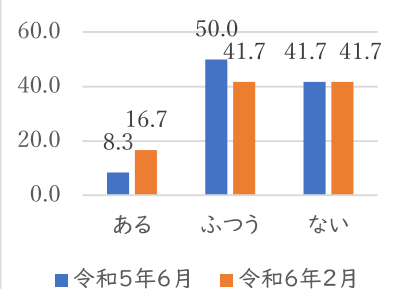
運動の実施状況について



体育の授業について



体力に自信はありますか



成果

- 「新体力テスト」の結果から、約4割の生徒が、総合評価を1ランクアップさせ、個人得点も9割以上の生徒が昨年より伸ばすことができた。また、記録の伸びも多くの種目で全国平均を上回った。
- 「新体力テスト」のアンケート結果から週3日以上運動する生徒や体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」と答える生徒が大幅に増えた。
- 親子で運動に取り組む「親子チャレンジ」を実施したことで、自宅で運動する機会が増えた。結果的に親子の時間をつくり出すことにもつながり、親子関係に良い影響を与えている。

課題

- 種目別伸長の結果から「巧緻性」や「瞬発力」に課題がある。また、運動が好きだったり、楽しいと感じていたりする生徒の中にも、依然として体力に自信のない生徒が存在する。鍛えたい能力に適した運動や、運動が苦手な生徒への効果的な手立てについて今後も検討していく必要がある。
- 校区内に生徒が体を動かせるような場所が少ない。また、生徒数も少ないために、休日生徒が外で遊ぶ姿もほとんど見られない。結果、体を動かす楽しさを味わえていない生徒が多い。
- 授業改善の中で、タブレットを活用したり、話し合ったりする時間を充実させようとすると、運動時間が短くなってしまうため、工夫が必要である。

まとめ

生徒数が減少し、運動するよさを感じる機会が年々減っていた中で、「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業第3期(令和5・6年度)推進校の指定を受けることが、本校の生徒に不足している資質・能力を高めるよい機会になるのではないかと捉え、研究をスタートさせた。2年間の研究において、「従来の取組を改善すること」「啓発を工夫すること」「ICT(タブレット端末)を活用すること」「スポーツ人材を活用すること」を4つの柱に生徒が楽しく、意欲的に取り組むための授業・環境・意識の改善に取り組んできたが、生徒たちの運動能力を高めたり、運動に対する意識を高めたりすることに多少なりとも寄与できたと考えている。一方で、少人数であることを考えると、授業や授業外において個別に効果的な手立てを行うことでもっと個々の運動能力も高められると考える。

今後は、生徒の運動能力を更に高めるために、現在の研究を継続・工夫していくとともに、個に応じた手立てにも取り組んでいく。そして、体力・運動能力の変化を感じさせることで「体力に自信がある」という生徒を増やしていきたい。

(右図: 体力アップ! チャレンジかごしま「長縄エイトマン」県4位【R5:3年】)



令和5・6年度

鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校

研究主題

夢や希望をもち、目標に向かって自ら学び、仲良く、
心身を鍛え自立できる生徒の育成
～生徒が楽しく、意欲的に運動に取り組むための授業・環境・意識の改善～

学習指導案



☆見とりグループについて

補強運動後、生徒がグループごとに整列します。会場右側がaグループ、会場左側がbグループになります。対象グループの参観をお願いします。 ※6(4) 本時の展開参照

○公開授業（14:15～15:05）

学年	教科等	単元名	授業者	会場
2年	保健体育	球技 ネット型 バレーボール	教諭 地迫 博昭	小学校体育館

令和6年9月19日（木）
志布志市立伊崎田中学校

保健体育科学習指導案

日 時 令和6年9月19日(木) 第5校時
第1学年 男子 9人・女子 2人 計11人
指導者 教諭 地迫博昭

1 単元 球技 ネット型(バレーボール)

2 単元について

(1) ネット型(バレーボール)の特性

- ア バレーボールはネットをはさんだ2つのチームが、主に手・腕を使ってボールを打ち合い、コートに落とさないように攻防し、得点を競い合うネット型球技の集団的スポーツである。
- イ 初歩的段階ではサーブ、パス、レシーブなどの基礎的・基本的な技能を用いて攻防をするが、発展的段階ではボールのスピード、高さ、角度などを変化させたトスやスパイクを用いた攻撃や、それを防ぐブロックなどの技能を用いて得点を競い合うスポーツである。
- ウ 技能を有効に活用した作戦を立て、カバーリングなどのチームの協調性が求められる運動である。
- エ バレーボールは、ボールの動きに対してジャンプしたり、前後左右に素早く対応したりするなど、瞬発力や敏捷性、巧緻性などを高めることができるスポーツである。

(2) 生徒の側から見た特性

生徒の実態(アンケート実施日: 7月19日 11人)

(単位: 人)

①	あなたは運動が好きですか。	好き 7	やや好き 3	やや嫌い 1	嫌い 0
②	あなたは体力に自信がありますか。	ある 2	ややある 5	あまりない 2	ない 2
③	あなたは運動やスポーツをすることは得意ですか。	得意 4	やや得意 3	やや苦手 3	苦手 1
④	あなたは体育の授業が楽しいですか。	楽しい 5	やや楽しい 6	あまり楽しくない 0	楽しくない 0
⑤	バレーボールは好きですか。	好き 6	やや好き 3	やや嫌い 2	嫌い 0
	a 好き、やや好きと答えた人はどんなところが好きですか。 協力して点を取るところ(4) パスがつながったり、ラリーが続いたりするところ(1) 高く跳ぶところ(1) チームプレー(2) スパイク、サーブ、レシーブなど(1)				
	b やや嫌い、嫌いと答えた人はどんなところが嫌いですか。 手が痛いところ パスをつなげなかったとき、責められるところ				
	c バレーボールでどんなことができるようになりたいですか。 トス、サーブ パス 声出し 全部 スパイク、サーブ・レシーブ 狙ったところへのパス 正確なサーブ・サーブ、パス、トス 安定した技術				
	d バレーボールに関して知っている知識を記入してください。 トス、サーブ、スパイク、ブロック、レシーブ、オーバーハンド、アンダーハンド 3回で相手コートに返す、ラリー、タッチネット、センターライン BR、BC、BL、リベロ、ミドルブロッカー、セッター、アタッカー、オポジット				

本学級の生徒は、明るく元気がある。また、11人中8人が部活動や地域クラブに所属しており、運動をすることに前向きで、保健体育の授業にも積極的に取り組む生徒が多い。バレーボールを習っている生徒はいないが、多くの生徒がバレーボールの学習に楽しく取り組んでおり、協力して得点を取ることやチームプレーの要素に魅力を感じている。また、バレーボールに関する基本的な知識ももっており、技術向上に意欲的である。一方で、パスがつながらないときに責められることやボールを受けると手が痛くなるという理由から、活動に対して消極的な生徒もいる。

(3) 指導観

- ア オリエンテーションでバレーボールに関心をもたせるために、高校生などの試合を鑑賞させる。
- イ 自己や自チームの課題解決につながる練習の場を準備するとともに、練習のねらいや目的を理解させながら学習に取り組ませる。
- ウ 段階的・系統的に学習を進めるために、「オリエンテーション」「ボールの操作とつなぎ方を身に付ける段階」「ボールを持たないときの動きを身に付ける段階」「まとめの段階」の四つに編成して取り組ませる。
- エ 「ボールの操作とつなぎ方を身に付ける段階」「ボールを持たないときの動きを身に付ける段階」では、ボールに触れる回数を増やすために、練習方法を工夫したり、コート内の人数を減らしたりしながら練習やゲームを行わせる。
- オ 「まとめの段階」で試合を行い、学習の成果を確認し、互いの技能の変容を認め合う場を設ける。
- カ 性別等の様々な違いを超えてバレーボールを楽しむことができるようにするために、基本のグループは男女混合で編成し、自己の役割を果たしたり、協力したりしながら学習ができるようにする。
- キ 身に付けさせたい動きの動画を学習資料として用いることで、生徒に理想とする動きのイメージを明確にもたせたり、動きのポイントを理解しやすくさせたりする。
- ク ゲームにおいて、プレイを撮影し、自分のプレイ、チームのプレイの動きを振り返り、チーム内で共有して、個人・チームの課題解決に向けて互いに声掛けができるようにする。

3 単元目標

(1) 知識及び技能

バレーボールにおいて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する。また、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防、仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
① バレーボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて理解している。	① ボールを返す方向に面を向けて打ち、相手の空いた場所にボールを返すことができる。	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	① 学習に積極的に取り組もうとしている。
② 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて理解している。	② 相手の打球に備えた準備姿勢をとり、味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	② 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。	② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。
	③ ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。	③ 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取り組みを見つけ、理由を添えて他者に伝えている。	③ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。

5 指導と評価の計画

単 元 の 目 標	知識及び技能	バレーボールにおいて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する。また、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
時数	1	2	3	4	5	6	7	8 (本時)	9	10	11	12	指導の工夫
段階	オリエンテーション	ボールの操作とつなぎ方を身に付ける段階 ボールを持たないときの動きを身に付ける段階										まとめの段階	・ 自チームでボールを落とさないようにするためにはどのようにすればよいのか考えられるようにする。 ・ ボールをつないで相手のコートに返球するためにはどのようにすればよいのか考えられるようにする。 ・ ICTを活用しながらどのようにすればうまくできるかを考え、味方に伝えられるようにする。
学 習 の 流 れ	0	整列・あいさつ・準備運動・補強運動											
	10	○ オリエンテーション ・ コートの名称 ・ 学習の進め方 ・ 高まる体力 ・ 技能のポイント ・ ゲームの進め方 ○ 学習目標・学習計画の確認 ○ 自己やチームの問題把握・課題設定の仕方	スキルアップトレーニング (パス・サービス・レシーブ・トス・スパイク)						試合形式				
	20		ためのゲーム	トス・スパイク サービス パス・レシーブ アンダーハンド オーバーハンド ※ボールの操作とボールのつなぎ方	ICT	個人課題確認をする チーム別練習	ICT						
	30			ゲームⅠ 場やルールを工夫 ラリーゲーム ブレルボール	ICT	ゲームⅡ 場やルールを工夫 3対3、4対4 7分ゲーム	ICT						
	40			ゲームⅢ 作戦を立てての攻防									
50	学習プリント記入・学習の振り返り												
評 価 機 会	知	①				①				②		総括的な評価	学習プリント
	技			①		②	①		②		③		観察
	思			①					①	②	③		学習プリント・観察
	態		①		①	②		①			③		観察
【評価方法】知識(学習プリント)技能(観察)思考・判断・表現(学習プリント・観察)主体性(観察・学習プリント)													
評 価 規 準	知	① バレーボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ② 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技	① ボールを返す方向に面を向けて打ち、相手の空いた場所にボールを返すことができる。 ② 相手の打球に備えた準備姿勢をとり、味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 ③ ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。											
	思	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③ 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。											
	態	① 学習に積極的に取り組もうとしている。 ② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ③ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。											

6 本時の実際 (本時 8/12)

(1) 本時の目標

- ア 相手の打球に備えた準備姿勢をとり、味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。【技能】
 イ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価

評価規準		技 能
		相手の打球に備えた準備姿勢をとり、味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。
判断の 目安	(A) 「十分満足できる」状況	低い姿勢で構え、ボールの落下点に移動し、パスの方向に体を向けながらセッターやアタッカーにパスを出すことができる。
	(B) 「おおむね満足できる」状況	低い姿勢で構え、ボールの落下点に移動し、パスをつなぐことができる。

評価規準		思考力、判断力、表現力等
		提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。
判断の 目安	(A) 「十分満足できる」状況	基本技術のポイントやつまずき等の動きや姿勢などについて言葉やジェスチャー等で伝えることができる。
	(B) 「おおむね満足できる」状況	基本技術のポイントやつまずき等について、伝えることができる。

(3) 授業デザイン上の工夫

- ア 生徒が意欲的に運動に取り組むための活動、学習の場の工夫【研究の取組①】
 自己やチームの課題を考え、解決するための方法を生徒自ら選ばせることで主体的な学びに結びつくようにする。また、人数やコートの広さを工夫することで役割を明確にする。
- イ 動きの問題点やつまずきを明確にする確認の場の工夫【研究の取組②】
 個人やチームの課題を解決するために、場面に応じて、ICTや作戦ボードの活用、コートの中での試行などに取り組みせ、効果的な話し合いができるようにする。
- ウ 多角的な理解につながる振り返りの実施【研究の取組③】
 複数の観点（分かったこと、できるようになったこと、友達のよかった発言・行動、もっとできるようになりたいこと）から振り返りをさせ、発表させることで、生徒全員の多角的な理解につながるようにする。

(4) 本時の展開 (★授業デザイン上の工夫 ●指導に生かす評価 ○記録に残す評価)

課程	時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1分	1 整列、あいさつ、出欠確認をする。	1 学習の場の安全確認をして、出欠確認、健康状態の確認をする。
	4分	2 準備運動・補強運動を行う。	2 ★ 各自の課題に応じた補強運動をスムーズに取り組ませる。【研究の取組①】
	2分	3 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	3-1 前時の学習を振り返り、個人やチームの課題から、本時の見通しをもたせる。
		アタックにつながるようにするには、どのようにしたらよいだろうか。	3-2 ● 前時の学びを伝えられているか。(観察)

	3分	4 チームの課題・練習方法を確認する。	4-1 課題・練習方法の確認を行う。 4-2 ★ チームの課題について考えさせ、学習課題解決に向けてチームに合った練習方法を話し合わせる。【研究の取組②】
展開 33分	3分	5 補助運動を行う。 ・キャッチボール ・対人パス	5-1 ボールの落下点に素早く移動させるための補助運動に取り組ませる。 5-2 オーバーハンドまたはアンダーハンドのどちらでプレイすればよいかを考えさせる。
	8分	6 改善点や出来栄を互いに伝えながら考えた練習に取り組む。	6-1 ★ 話し合った練習方法に取り組ませる。【研究の取組①】 6-2 ★ 練習をしながら、課題改善についてのアドバイスができるようにする。【研究の取組②】 6-3 失敗を非難するのではなく、どのようにすればよいかを伝えられるようにする。
	16分	7 ゲーム(5分-3分-8分)を行う。 ・ 自チームの動画を撮影する。 ・ 途中休憩をしながらアドバイスを する。	7-1 個人やチームの課題を確認できるようにするため、ゲームの様子を撮影する。 7-2 ○ 打球に備えた準備や味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができているか。(観察、ロイロノート) 7-3 ★ ゲーム前半の課題を休憩中に話し合わせ、ゲーム後半に臨ませる。【研究の取組②】 7-4 攻撃までボールが繋がらない様子が見られたら、つながりやすいルールを提案する。
	6分	8 チームの反省と課題について確認する。 ・ ゲーム終了後、練習が活かされているか、話し合う。 ・ 実際に体を動かして課題改善の確認を行う。	8-1 ★ 攻撃がうまくできたときとできなかったときの違いをチームで共有させ、ロイロノートに入力させる。【研究の取組②】 8-2 ● 仲間の課題や出来栄を伝え合うことができているか。(観察)
終末 7分	6分	9 本時のまとめと振り返りを行う。 ・三段攻撃を意識する。 ・セッターを向いて正確に返す。 ・相手のいないところに狙って返す。 ・声を掛け合い、連携をとる。	9 ★ 学習プリントでまとめと振り返りを行い、記入したことを発表させる。【研究の取組③】
	1分	10 次時の内容を確認する。	10 次時の学習への意欲を高める声掛けを行う。